

令和2年度災害廃棄物処理セミナー(近畿ブロック) ～災害対策の実態と廃棄物対策に伴う啓発・支援～

「災害廃棄物処理現場からの報告」

公益社団法人 全国都市清掃会議 総務部長 大川 敏彰 氏

- 災害廃棄物の収集運搬に係る被災都市と支援都市の収集現場からの事例紹介や経験談について説明

1. 災害廃棄物対策の重要性

- ・災害廃棄物の迅速な処理は、被災地域の早期の復旧・復興に繋がる。
- ・事前準備(災害廃棄物処理計画)に基づいた迅速かつ適切な初動対応が重要となり、市町村は特に下記の項目について特に留意し対応する必要がある。
 - ① リーダーシップの重要性
 - ・災害廃棄物は一般廃棄物に区分され、処理責任は市町村にある。
 - ・被災自治体が処理方針について意思決定することが必要である。
 - ② 初動対応の重要性
 - ・適切な処理のためには、仮置場の確保・開設・適切な運営、住民への広報及びボランティアの役割に応じた情報提供等が、発災後にまず取り組むべき重要な業務となる。
 - ③ 仮置場の適切な運営(二次災害の防止)
 - ・仮置場の適切な運営のため、仮置場周辺の衛生環境の維持、火災予防対策に努める。

2. 災害廃棄物処理現場からの報告

- ・平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨では、管理されていない仮置場が複数発生した。
- ・管理されていない仮置場は、大量の混合廃棄物、緊急輸送道路などの交通障害が発生することとなり、適切な処理・処分を阻害することとなる。
- ・被災自治体がリーダーシップをとり、自衛隊、ボランティア(社会福祉協議会)・NPO等と分担・連携して、災害廃棄物等の処理を実施することが重要となる。
- ・適切な初動対応のため、事前準備(災害廃棄物処理計画)により、受援体制など役割分担を整理しておくことが重要となる。

